

# あすけ通信

足助とつながる情報誌

## 第19号

2016年12月発行



萩野子供歌舞伎全国地芝居サミットin豊田（平成27年）

### 『思い出の風景 学校編』 ⑦萩野小学校

平成28年度は、全校児童29人。5学級（3、4年生が複式学級）です。

本校は、三角山活動、図書館活動、萩野子供歌舞伎の継承活動に取り組んでいます。中でも、怒田沢地区の「寶榮座」にゆかりの萩野子供歌舞伎は、今年30周年目を迎えます。演目は“白浪五人男”（弁天娘女男白浪稲瀬川勢揃場）です。地域の方に指導いただき毎年学芸会で上演を続け、愛・地球博（平成17年）や昨年の全国地芝居サミットin豊田で公演しました。今年11月12日（土）に30周年記念式典・公演を行いました。これからも大切な地域の伝統を受け継いでいきます。

おいでん・さんそんセンターについて知ろう！ 連載企画 第2弾

## 企業と山村地域のマッチング支援

今回は、「おいでん・さんそんセンター」（以下：センター）が、取り組んでいるマッチング支援について紹介します。

企業の中には、豊田市の豊富な山村資源を活かして、企業価値の向上に役立てたいと考えているところがあります。一方、豊田市の山村地域には、少子高齢化と人口減少が進む中で、地元地域をなんとか活性化させたいと考えているところがあります。センターでは、そのような企業と山村地域のマッチングを支援しています。これまでに形態は様々ですが、7つの企業・団体と山村をつなぐ支援を行ってきました。そして現在も、山村地域とのマッチングを希望している企業・団体からの問合せがあります。しかし、山村地域からの申込みが少ないのが現状です。センターでは、企業・団体とのマッチングを希望する地域を募集しています。

### ★マッチングの主な流れ

①相談・ヒアリング  
企業と面談し、意向に合わせた事業の企画を提案します。

②現地視察  
現地と地域担当者を引き合わせ、実施の検討を行います。

③マッチング成立  
地域との打合せを行い、詳細な事業計画を確認の上で決定をします。

④事業のキックオフ  
活動がスタート。取組についてセンターのWEBや機関誌で情報を発信します。

⑤事後フォロー  
事業が円滑に進むように助言や課題対応をします。

### Man to Man (株) ～元気ファーム事業～



9月24日（土） 豊田市伊熊町（旭地区）の耕作放棄地を「自社専用ファーム」として活用し、稲刈りをしているところをお邪魔して、企業の方に話をお聞きました。

「若い社員に実感を持った研修ができないかと、探していた時にこの事業を知りました。農作業の体験が、もの考え方や価値観を広げるきっかけになっています。」



# あすっご紹介

今回のあすっは、加藤 雅洋さん (35歳)

お父さんと一緒に加藤建築をやっていたらしいです。萩野地区にUターンされ、ご両親が住む実家の敷地内にご自身でマイホームを建てられました。ご家族は奥さんと3人のお子さんたち。消防団第5分団（萩野・明和）の分団長としても活躍されています。



## 加藤建築ということは家を建てる仕事ですか？

はい、平たく言うと大工です。祖父の代からやっていて、今は父とやっています。親子ですが親方と言う呼び方をして区別をつけるような心がけています。元請で現場監督、大工、見積りや設計書などの事務仕事まで全部やっています。親方の人柄や今までの仕事で信用してもらって実施さんと長い付き合いをさせてもらっています。信用だけが唯一の営業方法だと思っ連絡があったときにはすぐに動くような心がけています。

## いつから大工になろうと？

小学校の学芸会で将来何になりたいかを言うときがあり「大工」と言っていました。建築士の資格を取るために大学に行ったのですが、大学の授業ではビルの設計とか都市設計ばかりでした。何か違うなと思うようになり、親方に修行させてくださいと言って一緒にやりはじめました。

## 子育てはどうですか？

長男が萩野小学校に通っていますが、全校児童は二十九人です。

人数が少ないというのは良し悪しですが、先生が細かくしゃかり見てくれるのは良いところですね。

昆虫や魚が大好きで自然派な子がいるのでゲームはやらずにその子と虫捕りとか、川に魚を捕まえに行ったりしています。池に落ちて泥だらけで帰ってきたことがあり、「ああ、たくましく育ってきたな」と思いました。自然にたくましく育ってくれればいいです。

## 消防団の分団長としての思いは？

居心地が良い地域だということとを若い衆に刷り込んでおかないと、まだ結婚していない人たちには出て行ってしまおうので、その歯止めをかけられると良いなと思っています。消防団は豊田市在住か在勤なら入れます。豊田市街の会社の寮に住む人が会社の先輩に誘われて五反田のお祭りにきたら「この地域はおもしろい！」ってなって、「消防やらないか」と声をかけたら消防団に入ってくれました。結婚して五反田に住みたいと言ってくれています。岡崎在住で市内在勤の人もいるし、うちの分団

は結構外から来てくれています。

小学校のPTAに入ったら、消防団のOBばかりで入っていきやすかったです。上の人たちがわからないという若い人をつなげてあげたら、今ではみんないっしょに仲良くなっています。どこかでつながっているなら、それをもっとどこかにつなげた地域って活性するのではないかと思います。

## 外に出ている方へメッセージを

祭りのときくらいは顔を見せられるといいですね。そうすれば、足助を忘れない。萩野小学校区の夏祭りだけでも来て欲しいです。

先輩で、豊田市街に家を買ったけれどもお祭りだけは全部来るといふ人がいます。消防団にも入ってくれているし。そういう人がもっと増えるといいですね。足助まつりはまちなかの人が戻って来ますが、他の学区はそんなに戻ってないので、萩野だとほとんど同級生を見たことがないので。夏祭りくらいはこっちに来て懐かしむのも良いのではないかと祭りのたびに思っています。

(N・T)

## 『空き家にあかりを!プロジェクト』始動

「豊田市の山間部で暮らしたい」という希望は多くあります。平成27年度末時点で、228世帯が空き家の入居を希望されているのに対し、空き家の登録物件数は16件(平成28年9月現在)と、圧倒的に提供できる空き家が不足しています。そこで、おいでん・さんそんセンターは、この状況を改善すべく『空き家にあかりを!プロジェクト』を始動しました。プロジェクトの取り組みの一部を紹介します。

◎「空き家片付け大作戦(仮)」…空き家を登録するためのハードルの一つ「片付け」講座を開講

◎「移住者受入れスタートガイド」の発行…地域リーダーや定住促進に関わる方の教科書  
空き家をお持ちの方、受入れる側の方、お困りの事があればお問い合わせください。また、プロジェクトにご賛同いただける方に専用のステッカーをお渡ししていますので、ご連絡ください。☎(おいでん・さんそんセンター☎:0565-62-0610)



専用のステッカー

発行 あすけ通信編集委員会事務局  
豊田市役所足助支所内  
電話 0565-62-0601  
Email asuketsushin@city.toyota.aichi.jp